

船井情報科学振興財団 留学生レポート

2018年12月

澤田 真行

アプリケーションと面接準備でてんてこ舞いになっています。

Yale 経済学部六年目の澤田です。

■就職活動について 最近は、大量に、と言ってもおそらく他の学生よりは少し少ない七十から八十ほどの大学・企業にアプリケーションを済ませ、今は面接練習を繰り返しながら一月四日から六日の AEA Annual meeting での面接予約の電話をドキドキしながら待っているところです。

面接はホテルのスイートなどを借りて行われるようで、当日はホテルからホテルを渡り歩いて面接を受けることとなります。学会周辺のホテルは一斉に借り上げられ、学会のウェブサイトを通じて割引価格で予約できるのですが、そのシステムがなんとも原始的で、こういったシステムこそ経済学を活用して最適な割り当てができないのだろうか（分野として素人ながら）思っていました。私はインターネット回線が安定していたためか、余裕を持って予約することができました。

ここしばらく、仲間内や教授相手の面接練習を繰り返していますが、事前知識が必ずしも共有されていない他分野の人に、資料なしで端的に研究の要点と面白さを伝える、というプロセスの難しさを痛感しています。特に、普段何気なく使っている用語が実は伝わらなかったり、当然と思っている概念を一から説明しなくてはならないという壁に向き合うことで、研究だけでは身につかない技能の訓練が思っていたよりも楽しいと思いはじめています。とはいえ、いい加減面接練習も飽きてきました。なんとか就職にこじつけて、他の研究のことを考えたいです。

■研究の進捗について 博士論文は前回お伝えした通り、プログラム評価の手法開発です。最新バージョンではアプリケーションをモロッコを舞台とした実験 (Crépon, Devoto, Duflo and Parienté, 2015) としまして、ランダム化の前に観察された変数を用いることで、前回のバージョンよりもより弱い仮定でマイクロクレジット参加の効果を推定しました。通常、プログラム参加が内生的に決定される時はプログラムへの無作為割り当てを操作変数 (例: Angrist, Imbens, and Rubin, 1996) として使うのですが、プログラムへの割り当て自体が直接の効果を持つときはその割り当てを操作変数として使えないという問題がありました。その結果、操作変数による推定値が私の推定に対して 2.3 倍にも大きくなるということがわかり、プログラムへの割り当てに正の効果がある可能性が示されました。最新バージョンは私のホームページ:<https://sites.google.com/view/masayukisawada/research> にてご覧ください。

伊神教授との論文に関してもアップデートがなされまして、現在査読待ちの段階にあります。2000 年代の中国企業のデータに着目し、私企業は国営企業に比べて生産的

だと言われるがそれは本当なのか、この時期に多く行われた国営企業の民営化は生産性を高めたのか、という問いに答える論文となっています。こちらも最新バージョンが https://papers.ssrn.com/sol3/papers.cfm?abstract_id=2695933 に公開されています。

■終わりに なかなか予定が折り合わず、お世話になっているみなさまへのご挨拶を怠っておりまして大変心苦しく思っております。なんとか就職活動を乗り切って、なんらかの形で恩返しができたらいいなと考えています。日本もだいぶ寒さが本格化してきたと思いますが、どうぞお体にお気をつけてお過ごしください。

■参考文献 Angrist, J. D., G. W. Imbens, and D. B. Rubin (1996): “Identification of causal effects using instrumental variables.” *Journal of the American Statistical Association*, 91, 444-455.

Crépon, B., F. Devoto, E. Duflo, and W. Parienté (2015): “Estimating the impact of Microcredit on those who take it up: Evidence from a randomized experiment in Morocco.” *American Economic Journal: Applied Economics*, 7, 123-150.

澤田 真行